

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

1 会議名	加茂高等学校 学校運営協議会 (第1回)		
2 開催日時	令和8年6月23日(火) 13:30~15:30		
3 開催場所	加茂高等学校 大会議室		
4 参加者	会長	高見昌彦	全日制PTA会長
	副会長	松井彰良	ウインズコーポレーション 代表取締役
	委員	今井一彦	司法書士
		尾関里佳	地域代表
		桑原みち子	定時制教育振興会長
		松尾和樹	可児市議会議員 NPO法人縁塾
		武市由紀子	元特別支援学校校長
	学校側	関谷篤	校長
		西田智子	副校長
		佐藤知子	事務部長
		若狭幹大	教頭
		出川尚之	教頭
		西野公司	教務主任(全日制)
		服部達哉	教務主任(定時制)
		水口智人	生徒指導主事(全日制)
		山田篤実	生徒指導主事(定時制)
		上野智子	進路指導主事(全日制)
		渡辺純也	進路指導主事(定時制)
		木澤慶和	Link 探究部長(全日制)

5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和8年度教育指導の重点学校教育目標・具体的重点目標について【定時制】

- ・令和8年度教育指導の重点及び学校経営計画
- ・令和8年度各分掌の現状と課題及び年間目標と具体的取組

意見1: 目標の達成度の数値目標として、学校評価アンケートでの良い評価70%とあるが、学校評価アンケートとはどのようなものであるか。また、良い評価とはどのようなものを指しているのか。

⇒生徒及び保護者を対象に、運営計画にある目標などに対する評価を5段階で回答するものである。その中で、肯定的な評価が70%以上を数値目標として掲げている。

意見2: 保護者の懇談における出席率ほどの程度か。また、昨年度、学校祭を保護者にも開放したとあるが、実際にはどの程度来校したのか。

⇒出席率を数値として持つてはいないが、懇談への保護者の出席率は高い。また、文化祭については、昨年度初めて、保護者の参観を行ったが、多くの保護者が見学を訪れた。

意見3: 副校長らの説明から、本校は生徒に寄り添いながら良い取組をおこなっている。今後もこれらの取組を継続するとともに、卒業後には、地域で就職してくれる生徒を育ててほしい。

意見 4 : 本校では、外国にルーツを持つ生徒が多く在籍しているとのことであるが、類似の特徴をもつ近隣の学校との連携や交流などは行っているのか。また、言葉の面で苦労があると思うが、生徒や保護者とのコミュニケーション不足等を理由とした進路変更などの事例はあるのか。

⇒近隣の類似の学校との連携は行っていない。保護者とのコミュニケーションについては、外国語支援員などを活用しながら取り組んでいる。中には、生徒と保護者の間でのコミュニケーションの不足が伺えるケースも存在するため、面談などは必ず生徒と保護者の同席の上で実施をしている。また、学校での面談等が困難な場合には、家庭訪問を行うなどして生徒、保護者とのコミュニケーションの機会を確保するよう努めている。

意見 5 : 今の生徒は、自分から動くことが苦手なようである。学校では生徒の主体的な取組を促すとあったが、どのような手法で行っているのか。生徒には、様々な場面で自分から動くことのできる力を身につけさせてほしい。

⇒本校の生徒は、入学までに、自分から動く経験をしてきた生徒が少ない。そのため、生徒会活動等を中心として、生徒と打ち合わせをしながら、徐々に生徒が前に出ていく場面を増やし、自分たちで考え、行動することができるような指導を継続して行っている。

(2) 令和 8 年度学校教育目標・具体的重点目標について【全日制】

- ・令和 8 年度教育指導の重点及び学校経営計画
- ・令和 8 年度各分掌の現状と課題及び年間目標と具体的取組

意見 1 : 自転車の乗車用ヘルメットの着用や傘さし運転等の状況には変化はあったのか。また、青切符が導入されたが、違反の対象となった生徒は存在するのか。

⇒入学時の自転車通学の届にヘルメット着用の文言が明記されていることや、年度初めの登下校の様子などから、生徒はヘルメットを所有していると思われるが、4 月以降、着用する生徒の減少が見られる。今後は、啓発活動を充実させ、着用率の向上を図っていきたい。また、本校では、傘さし運転は見られない。多くの生徒は雨天時には雨合羽の着用または保護者による送迎となっている。

青切符の対象となった生徒については現時点では把握をしていない。

意見 2 : 学校運営計画において、社会的役割が示されているが、それ以下に示された各ポリシーや目標が、社会的な役割に明確につながる目標を設定してほしい。

意見 3 : 本校は、外部への情報発信が不足している。今、学校が何をしているのかが外部にも分かるようにしてほしい。情報発信のため、SNS を導入することであるが、現在の進捗が見えない。物事の決定においてもスピード感をもって取り組んでほしい。

意見 4 : 教育相談においては、学校内だけではなく、家庭に関する相談も増えているとのことであるが、保護者対応は日常の業務において比重は増加しているのか。

⇒以前に比べると増えている。外部の機関と連携を取りながら、学校だけで抱え込まないよう対応を行っている。

意見 5 : 文理探究科は、探究活動を軸として進学を目指す新しい普通科ということであった。

今後の進学指導において、学力を中心とした一般入試、探究活動の成果等を活用した総合型入試のいずれを重視した進学指導を行っていくのか。

⇒今後は、探究活動により獲得した知識や能力を活用して入試に挑む生徒やその成果を、卒業後の進路に結び付けて考えることができる生徒が増えていくことが想定される。学校としてはいずれかの入試方式を重視するというのではなく、生徒の進路希望や個人に応じた進学指導を行っていく予定である。

意見 6 : 働き方改革の推進において部活動が重要な位置を占めているが、指導を外部に委託している部活動はどれだけあるのか。

⇒本校において、指導を完全に外部に委託している部活動は存在していない。しかし、

サッカー、野球、ソフトボール、テニス、演劇、書道、茶華道の6つの部及び同好会においては、外部指導者による指導を行っている。また、部活動の負担が特定の教員に偏らないように各部活動に複数顧問を配置している。

6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の教育指導の重点及び学校運営計画について承認が得られた。

全日制においては、地域や中学校に対し、文理探究科の目的及び特色の一層の周知と理解を促進させることとともに、教育相談等の生徒支援体制の充実、教員の業務負担の軽減などを、組織的な体制整備を進め、探究的な学びを継続的に推進していきたい。また、情報発信力等、課題についても指摘を受けたため、今後は効果的な課題解消のための方策を検討していきたい。

外国籍生徒の進路支援にも力を入れ、地域との連携を深めながら、生徒が持つ言語能力などの強みを活かせる機会を広げ、学習や生活上の課題に取り組む意義や成功体験を丁寧に伝え、生徒の意欲を育む指導を心がけていきたい。

定時制との連携や部活動・地域活動の支援、広報の工夫を通じて、学校全体の魅力と教育の質をさらに高めていきたいと考えている。